NISSEI Eblo

Eblo Report 2013

Communication on Progress

～社会的責任活動の報告～

ニッセイエブロ株式会社

～過去を知る、そして、現在をつたえる、未来につながる～

本年度の編集方針は つたえる つながる です。
これは、私たちニッセイエブロ株式会社のコーポレートスローガンでもあります。

本冊子は本年度で4回目の発行となり、
昨年度までは3ヵ年計画「見える、取組む、成長する。」をスローガンに取組んでまいりました。
本年度は新たに「つたえる、つながる。」を編集方針と設定し、作成いたしました。

1944年、当社は創業し、2014年に70周年を迎えます。
今までの歩みを振り返り、どのように発展してきたのか、
現在、どのような取組みをしているのか、
そして、今後、社会に対して、いかなる存在であるべきなのか
私たちは今一度、見つめなおす時であると考えます。
さらなる持続可能な発展のために、私たちは原点に戻り、考え、行動していきます。
そこで「Eblo Report 2013」は「過去」「現在」「未来」に亘る、私たちの責任について、
お伝えしていきます。

p.2 編集方針

p.4 特集1 ニッセイエブロの軌跡

p.6 事業内容 私たちは、お客様の「つたえる、つながる。」をサポートします。

p.8 CSRへの取組み 国連グローバル・コンパクトへの加盟

p.9 コンプライアンス遵守 企業倫理をつたえ、コンプライアンスの遵守へつながる

p.10 労働環境 情報と思いをつなげ、社員同士つながる

p.11 環境への取組み 環境への貢献活動をつたえ、意識向上へつながる

p.12 特集2 父から息子へ 思いを受け継ぐ 未来に向けて つたえる、つながる

p.14 関係者様からの激励

p.15 編集後記

p.16 会社概要

この報告書について

例年同様、ニッセイエブロ株式会社が加盟している国連グローバル・コンパクトへ提出する活動報告書(COP [Communication on Progress])の制作にあたり、武蔵野大学環境学部佐々木ゼミ生を中心とした8名(3年生2名、2年生6名)とニッセイエブロ株式会社との協働により企画から制作を行いました。
そして本レポートは同大学 環境プロジェクトの「ECO REPORT WAY 21」プロジェクト(※)により分析・評価されました。

(※) 企業が発行する環境・CSRレポートを学生が独自に作成したリクルート視点の21の指標に基づき評価・分析し、発行企業へ報告・意見交換を行う活動。

ホームページ
http://www.ecoreport.jp/

Facebook
https://www.facebook.com/EcoReportWay21

企業のCSRレポート制作に学生が協働してきて

武蔵野大学 環境学部
教授 佐々木 重邦 氏

2010年から「見える、取組む、成長する。」をスローガンに、3ヵ年COPを制作してきましたが、このスローガンはこのプロジェクトに参加した学生の成長の姿そのものを表していると思います。この活動を経験したお蔭で皆、立派に成長しました。
そして今回「つたえる、つながる。」のスローガン。今年度8名の学生が参加し、COP制作もスローガン通り、確実につながっています。
この活動がニッセイエブロ株式会社と武蔵野大学環境学部の学生とのつながりだけでなく、多くの企業にも「つたえ」そして「つながる」ことができれば、この活動の意義はより一層重要になると思います。

特集1 ニッセイエブロの軌跡
～歴史をつたえる、理解につながる～

ニッセイエブロ株式会社は2014年、お陰様で創業70周年を迎えます。私たちはこの佳節を迎えるにあたり、今一度、自社の歩みを振り返り、ステークホルダーの皆様に私たちをより深く知って頂ければと願っています。

昭和20年、弊社の歴史は
焦土からの復興に欠かせない
「青写真」を取り扱うことで始まった…。

昭和20年代の本社と社員
（千代田区神田鎌倉町）

創業者（初代社長）亀田英二

昭和19年（1944年）
創　業

亀田英二が日本青写真工業社を創業し、個人営業を始める。
空襲で焼け野原となり、瓦礫の山と化した東京。
創業者は関東大震災の時を思い起こし、復興のためには大量の青写真が必要であることを知悉していた。「日本の復興に役立つ仕事をやろう」との発意が事業を始める端緒だった。
その後、東京大空襲を経て中央区に新本拠地を設置、本格的に創業する。

創業10周年

於：千代田区立神竜小学校講堂

創業40周年

1985年に創業40周年を迎える。
また第二日青ビルが竣工し、記念披露パーティを開催。

日青本社ビル
（港区西新橋2丁目）

第二日青ビル
（港区西新橋1丁目）

亀田修平が社長就任

エブロスピリッツ

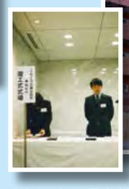
創業の精神である「日本の復興のために…」は世のため、社会のために貢献したいという思いから生れた。のちに現・亀田修平社長が「事業とは奉仕である」という形で継承している。
言葉は違うものの思いは同じである。初代社長は創業すること、現社長は先代から事業を継承すること、というそれぞれの立場で社会貢献を果たしている。
創業70周年を目前にした今も、この“エブロスピリッツ”は決して変わることなく受け継がれている。

平成元年（1989年）
「ニッセイエブロ株式会社」
現社名に変更。

現社名「ニッセイエブロ株式会社」に変更。
創業以来のDNA『ニッセイ（日青/日本青写真）』を継承しつつ、「able：可能、有能」を国際共通語であるエスペラント語により「eblo（エブロ）」と表現した。

創業50周年記念
～50年コミュニケーション～

1995年に創業50周年を迎える。



2001年、現本社ビルが竣工。

平成22年（2010年）
グローバル・コンパクト加盟

CSR活動を積極的に取組む上で国連の提唱する企業の自主行動原則である『グローバル・コンパクト』への支持を表明。

エコプロダクツ2012 同時開催セミナー「環境・CSRレポートの有効発信 ― リクルート視点と企業視点との融合 ―」を武蔵野大学と共同講演。

VOICE

時代の流れを読み、順応することで発展してきた。

取締役　事業部長
石川 茂樹
（昭和56年入社）

入社した当時は現在に比べ、仕事も受注しやすく順調でありました。しかし経済情勢や市場動向の変化に伴い、青写真から印刷そして今日の企画・デザイン、Web制作等を行っております。このように会社として変化して参りましたが、一貫して大事にしていたことがあります。それは**「お客様と直接お会いし、コミュニケーションをとること」**であります。お客様に我が社を理解し信頼して頂くためには、インターネットが普及した時代であろうとも直接お話しすることは欠かせないことだと考えます。

私たちは、お客様の「つたえる、つながる。」をサポートします。

コミュニケーション分野の課題解決型企業として　最適な価値を提供することを追求し続けます。

持 続 可 能 な 発 展

企業価値の向上、顧客生涯価値の獲得、 好意度形成を通じた売上の拡大

インターナル・コミュニケーション

ビジョン、指針、戦略等を
内部で共有する

総合印刷

- ポスター
- パンフレット
- フライヤー
- 論文集
- 定期刊行物

企画・編集・デザイン

- 広告、SPの表現プランの企画・制作
- 会報誌、情報誌の企画・取材・編集
- テレビCM、ラジオCMの企画・制作
- Webの企画・制作
- スタジオ撮影、ロケーション撮影
- キャラクターの企画・制作
- CI、VI、プラン企画・制作

イベント・展示会等 運営

- ニュースリリース
- メディア・トレーニング
- 記者発表会・プレスイベント
- 危機管理広報
- タッチ&トライ型イベント
- 文化催事
- 懸賞キャンペーン
- サンプリング

Web / システム開発

- Webサイト
- スペシャルサイト制作
- ソーシャルメディア
- スマートフォンアプリ
- リッチコンテンツ
- ポップアップ広告
- Webシステム
- 電子媒体
- Webインフラ
- 業務／イントラ系システム

映像制作

- テレビCM
- 販促用ビデオ
- 研修用ビデオ
- ストリーミング映像
- イベント用映像

文書管理・情報管理

- ナレッジ・マネジメント
- リスク・マネジメント
- 情報管理

レコード・マネジメント／BCPコンサルティング
※文書管理、文書電子化、文書管理システム、外部書庫・トランクルーム管理、文書整理代行、機密文書処理など

エクスターナル・コミュニケーション

様々な事業活動の内容を
外部へ伝える

広 報 P R　**広 告 宣 伝**　**販 売 促 進**

CSRへの取組み

国連グローバル・コンパクトへの加盟

ニッセイエブロ株式会社は2010年1月6日付けで国連グローバル・コンパクトへ正式に参加しました。
CSR活動を積極的に取組む上で国連の提唱する「グローバル・コンパクト10の原則」を中心に責任ある行動を実践していきます。

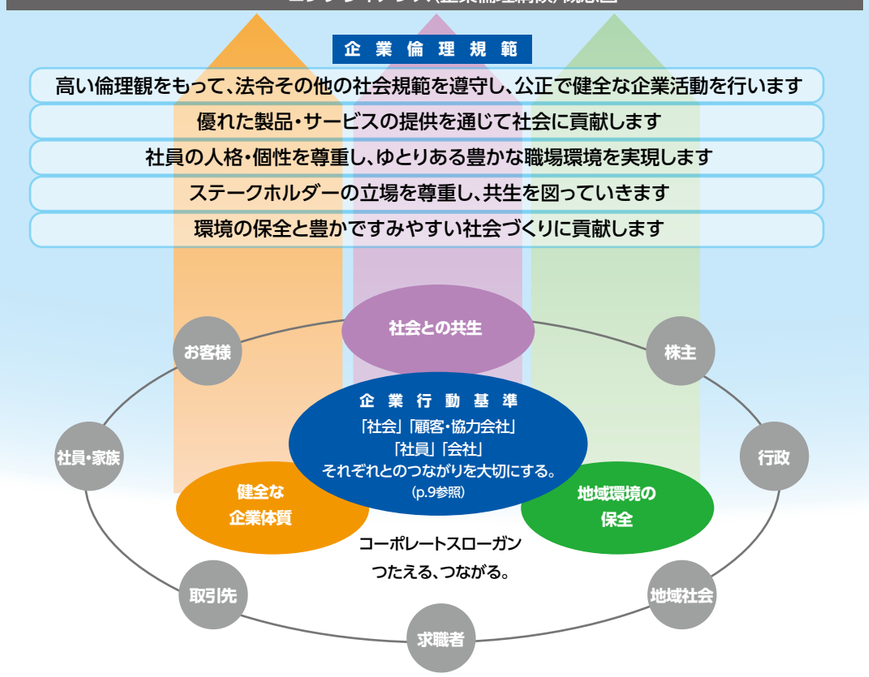
人権
企業は、
原則1:国際的に宣言されている人権の保持を支持、尊重し、
原則2:自らが人権侵害に加担しないよう確保すべきである。

労働基準
企業は、
原則3:組合結成の自由と団体交渉の権利の実効的な商人を支持し、
原則4:あらゆる形態の強制労働の撤廃を支持し、
原則5:児童労働の実効的な廃止を支持し、
原則6:雇用と職業における差別の撤廃を支持すべきである。

環境
企業は、
原則7:環境上の課題に対する予防原則的アプローチを支持し、
原則8:環境に関するより大きな責任を率先して引き受け、
原則9:環境に優しい技術の開発と普及を推奨すべきである。

腐敗防止
企業は、
原則10:強要と贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗の防止に取組むべきである。

コンプライアンス(企業倫理綱領)概念図



コンプライアンス遵守

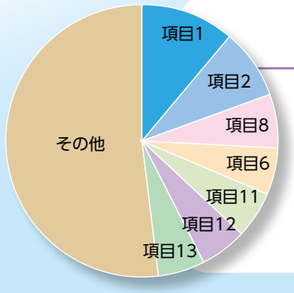
企業倫理をつたえ、コンプライアンスの遵守へつながる

私たちは「法・社会規範を遵守する」一人であるためにも身近な常識的行動こそコンプライアンスの基本と考え、「顧客・協力会社」「社員」「会社」との各関係に至るまで全社員が意識し、取組んでおります。また、コンプライアンス規定、コンプライアンスブックを社内共有フォルダに格納することで、社員への意識浸透を図っています。

企業行動基準

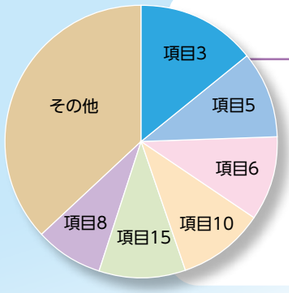
昨年のEblo Report 2012では企業倫理規範について取り上げましたが、今回はその規範について行動すべき内容を具体化した企業行動基準(項目1～21)について社員の意識調査としてアンケートを行いました。

社会	項目1	法・社会規範の遵守
	項目2	反社会的勢力と関係しない
	項目3	環境保全への努力
	項目4	企業倫理の徹底
	項目5	社会貢献への参加
顧客・協力会社	項目6	優れた製品・サービスの提供
	項目7	顧客・協力会社等との適正取引
	項目8	機密情報の取扱い
	項目9	常識的な接待・贈答
	項目10	適正な宣伝・広告
社員	項目11	社員の人格・個性の尊重
	項目12	プライバシーの保護
	項目13	差別的取扱い禁止
	項目14	職場の安全衛生維持
	項目15	労働関係法の遵守
会社	項目16	就業規則の遵守
	項目17	適正な会計処理
	項目18	企業秘密の管理
	項目19	会社資産の適切使用
	項目20	情報システムの適切使用
	項目21	知的財産権の保護



Q.最も意識が高く遵守されていると感じる項目は?

主に業務の中で関わる内容、また、社員個人に係る点も遵守されている項目が主に挙げられました。
「全項目について積極的に取組んでいる」等の意見が多く「お客様から個人情報を預かる案件も多くあり、情報管理はしっかりしている」「福利厚生や有休等がよく活用されている」「パワハラやセクハラも見受けられない」等、当社の行動基準を遵守している意識は高く見られました。



Q.後さらに意識を高め、改善の必要があると感じる項目は?

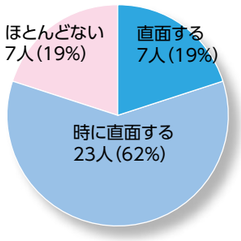
「全体的には ISO14001 ペーパーレス等に対する意識が希薄」「さらに営業活動、利益拡大につなげていくべき」「エブロのアイデンティティーを確立しないと社会に埋もれてしまう」という「環境保全への努力 」「社会貢献への参加」が多く意見されました。その他、私たちの本業からみてISMS運用のさらなる厳格化についての改善や「机通路に置かれている荷物が多く危険」等、クリーンオフィスに対するコメントも見られました。

ZoomUp

Q.仕事上、「知的財産権の保護」について、その重要性を強く感じる場面はありますか?

知的財産権(著作権)

企業行動規範の中でも知的財産権の保護は、一般的な法令遵守に止まらず、広告をはじめとするコミュニケーションに携わる私たちにとって重要な課題の一つです。そこで、今回はその知的財産権についても調査しました。



Q.広告制作会社の知的財産権について、私たちにとって特に重要な点はどのようなことですか?

当社にとって重要な知的財産権は、特に著作権が挙げられます。著作物としては、写真、イラスト、プログラムはもちろん、個々の著作物とは別に、部品の選択又は配列に創作性があれば、編集著作物として認められ、電子データであってもデータベースの著作物として認められます。我々はその対象と価値を正しく理解し、権利を損なう事なく業務を遂行する事が求められています。

ニッセイエブロ株式会社
プリンティングマネジメント部 グラフィックグループ
高橋 邦和 (知的財産管理技能検定資格 保有)

労働環境

情報と思いをつたえ、社員同士つながる

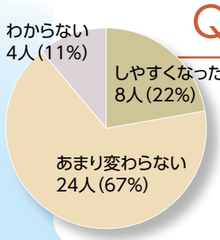
私たちはコミュニケーションに携わる企業として、まず自分たちが社内外の情報を共有し、業務に活かしていくことが大きなテーマでもあります。様々な取組みから、社員同士での意思疎通を深め、さらにお客様より信頼頂ける会社を目指しています。

対面コミュニケーションが重要

2010年にSFA*を導入。営業活動を始め、お客様のニーズ等を社員同士が日々、共有しています。このSFAの運用については、社内で機能について研修を実施したり、都度、運用レベルを見直しながら、継続的に改善しています。今年度は各営業担当の顧客情報や案件情報、そして活動の成功事例までが共有されつつあります。反面、SFAやメールだけでは共有できない事も、これら取組みで明らかになってきました。

*SFA (Sales Force Automation)：
社内において顧客の情報を管理・共有することで営業活動を支援するシステム

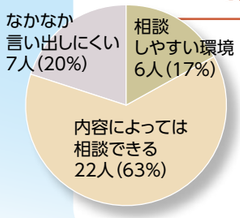
Q. この一年間で業務情報の共有は、しやすくなったと思いますか?



情報共有の印象度として「あまり変わらない」と全体の67%近くが回答しました。SFA導入により「業務の内容は見える化された」が「対話・対面によるコミュニケーションはまだまだ」「SFA 利用していない人から見るとそう変わらない」等、これからの課題も見られる結果となりました。

一方、経営トップと一社員のコミュニケーションにおいては、年に一度、社長に提出する「コミュニケーションカード制度」があります。社員個人の仕事の悩み、業務内容や業務量が力量に合っているか、これから実践したいと考えている業務などを記入。社員が社長との面談も要望することができる社内コミュニケーションの制度となっています。

Q. 経営トップや上司に自分の意見、困っていること等を話す機会について



経営トップへ意見のいいやすさについては「相談しやすい環境」「内容によっては相談できる」を合わせて全体の8割弱が「相談できる」と回答しました。「コミュニケーションカード」や定期的な面接等の制度面や「相談しやすい環境は以前より整っていると思う」と言った職場環境によるものを挙げられました。

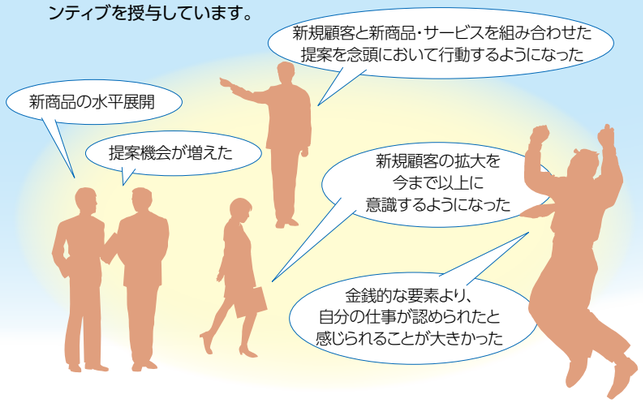
又、近年では毎年夏、社員有志の発案で最上階テラスでのビアパーティも開催され、会社としても有効な社員交流の機会として支援しています。

成長できる職場を目指して

社員個人のスキルアップやモチベーション向上の視点からも研修制度の充実を図っています。

今年度は以前の外部研修に加え、社内で企画した研修を定期的に実施、又、新たな外部講師による研修を試験的に実施しました。この受講した中でコミュニケーションに活かせる内容については、一部、私たちの商品・サービスとしてお客様へ提案しています。自身のスキルアップと同時に自分が受講して終わりではなく、研修コンテンツをお客様へ提案することで自分もお客様も喜べるよう、有益な取組みを目指しています。

2012年より新規顧客獲得キャンペーンと新商品・新サービス受注キャンペーンを実施、毎月初めの朝礼で案件の受注獲得者を表彰、インセンティブを授与しています。



2013年は、これらの働く環境の改善も一因となり、テーマである新規受注案件増大の実績につながりました。

環境への取組み

環境への貢献活動をつたえ、意識向上へつながる

私たちは持続可能な社会を形成していくために、環境への取組みは企業にとって欠かせない課題のひとつであると考えています。コミュニケーションにかかわる本業務を通して「私たちらしい環境貢献」を目指します。

本業務に直結したISO14001の取組み

ニッセイエブロ株式会社はISO14001を認証取得して10年目を迎えました。

近年は「事業活動を推進すればするほど、環境保全・環境配慮の取組みが推進する」という事業・環境両活動の統合的なISO14001運用を目指しています。

これからも私たちはISO14001のPDCAを基本とし、常に「ニッセイエブロらしい」環境への貢献活動を積極的に取組んでいきます。

VOICE

ニッセイエブロ株式会社
総務部（ISO14001事務局）
石原 直人

2003年、ISO14001を取得した当時、“電気や紙、ごみなどの削減”を環境目標としていました。以降、毎年視点を変え、新たな目標としてCO_2の削減やリサイクル活動等にも取組んできました。しかし、その目標も達成後、数年が経過すると目標がマンネリ化し、社員の環境意識が希薄化すると言った新たな課題も浮上してきました。

この課題を解決するためには、「本業務を進めつつ、同時に環境活動にも取組める」仕組みが必要と考えました。今、取組み始めている「事業・環境両活動の統合的」な目標を一人ひとりが高い意識で無理なく、推進できる持続可能な「環境への取組み」にしたいと思っています。

また、総務部でも社員の協力を得てペットボトルのキャップを回収、NPO団体と協働し、世界中の子供にワクチンを届ける”エコキャップ活動”にも参加。今年度、回収したキャップを提出し、微力ですが貢献することができました。

私たちは、環境保全の活動を継続しながら、環境配慮、そして環境貢献へと取組みを進化させていきたいと思います。

環境に配慮した商材の提案

私たちは省資源等、社内の取組み以外にも事業を通じて社会とつながる環境配慮活動を行っております。お客様に向けて環境に配慮した商材の提案・提供もその活動の一つです。

環境に配慮した商材を提案し、お客様の企業で取組む環境活動を支援しています。お客様のニーズに応えられるように、ニッセイエブロでは様々な環境に配慮した商材を取り扱っております。

水なし印刷、カーボンオフセット
水なし印刷でより環境に配慮した印刷物を作成し、環境事業への投資等でCO_2削減に貢献します。

リサイクル石鹸
使える廃食用油を有効活用した、臭いのしない品質の良いリサイクル石鹸です。

ストーンペーパー
石からできた紙「ストーンペーパー」。木を伐らないため森林保護に繋がります。

VOICE

ニッセイエブロ株式会社
第二営業部
福井 慎之助

私は、環境に配慮した商材をお客様に提案する取組みを行っています。この取組みを始めた頃、特に「環境」を切り口としてお客様へ提案する営業は多くなかったように思います。

この提案が活発になるにつれ、少しずつですが、社内でも声を掛けて頂き、最近では提案するお客様も増え、共感頂ける方も社内外に増えてきております。

今まで私が提案した商材をきっかけに、取引先の企業様が環境に関する取組みを、従来よりも積極的に行おう、と会社全体が動いてくれたことがありました。自分の行動が会社の環境活動に対する意識を変えることのきっかけになり、自身の営業活動に弾みがつきました。

また、取り扱う商材に「環境配慮という付加価値」をつけることが、時にお客様の興味・関心、そして共感を得られることを体感しました。

今後は、さらにお客様のニーズに応えられるように、取り扱う商材を研究し、増やしていこうと考えております。また、この提案活動を通じて、お客様の環境に対する意識の向上や新たなブランディングにしていくことのお手伝いになれば、非常に嬉しいです。これからもお客様の環境貢献活動に協力していきたいと思います。

亀田社長

特集2 父から息子へ　思いを受け継ぐ

未来に向けて　つたえる、つながる

現在の経営者である亀田社長と次期社長である亀田取締役が語る、ニッセイエブロの過去、現在、そして未来。

亀田取締役

2014年、創業70周年に向けて

Q. 明2014年、ニッセイエブロ株式会社は創業70周年を迎えます。今まで歴史の中で特に印象深いエピソードをお聞かせください。

【亀田社長】私が入社したのは創業してから30年目くらいのことでした。それ以前のことは人から聞いたり、外から見ていた程度ですが、知っています。創業当時（昭和19年）はまさに混乱・激動の時代ですから、創業するには物資のない時代、相当な努力が必要であったと思います。以来、時代も変わっていき、創業の頃から取り扱っていた商品は時代とともに変わっていきました。例えば、現在はすでに取り扱っていませんが、青写真焼付けやトレースやマイクロ写真、感光紙の製造・販売といった仕事が主な業務内容だったと聞いています。

私が入社以降、特に印象深いのはITの出現ですね。言うまでもなくIT技術は社会自体を激変させ、私たちの仕事内容も一変しました。かつて、一枚のポスターを制作する際、コピーを書く人、デザインを描く人、色をコーディネイトする人、さらに素材である写真の加工やイラスト作成等さえも、それぞれの専門的なスタッフがおり、それぞれの作業を組み合わせ、成果品は完成していました。

ITの出現によりイラストレーターはじめ編集ソフトを使うことにより誰でもが制作出来て、そのデータを通信で容易に受け渡すことが当たり前になりました。これによって作業環境は大きく変り、効率化、合理化により、個人の生産性も高まり、制作コストは劇的に下がりました。そのため、写植屋さんや製版・印刷会社も数多く姿を消してしまいました。

事業を存続するためには、かつての複写業だけでなく印刷や広告代理業、さらにはシステムやソフト開発業など他業種とも積極的に連携していかなくてはなりませんでした。私たち事業展開として印刷物の企画制作にとどまらず、お客様が抱えるコミュニケーション全般にわたるソリューションにつなげてきました。

要は「イノベーション」「環境の変化」「グローバル化」と言ったテーマにどう対応していくかが大切です。これらに対応できる会社と対応できない会社では大きな格差ができています。私たちは世の中の変化を素早く把握し、一人ひとりが日々研鑽を深め、チャレンジする精神と自分を変革する努力が必要と考えています。

Q. 亀田取締役はニッセイエブロ株式会社について「当社ならではの良さ」と思うところはありますか。

【亀田取締役】私は前職よりニッセイエブロ株式会社に来て、まだ半年しか経っておりません。しかし、会社内の雰囲気や社員の仲の良さについては私が幼少の頃から父より聞いていました。よって、それが何十年も前から抱いている当社に対する印象ですね。

本年、入社して新たに印象深く思ったことがあります。それは、社員一人ひとりに光を当て、その活躍を支え、見守ると言った、個人を大切にしている会社だな、と改めて感じるようになりました。

ステークホルダーの皆様とともに

Q. 「事業とは奉仕である」というお考えとは、どのようなことでしょうか。

【亀田社長】自由主義社会の中で需要と供給があり、それは自由意志で成り立つものです。それぞれ消費者は必要なものやサービスに対してお金を払って買い、それによって幸せになるということで社会は成り立っています。よって我々は人の役に立つものを提供できなければ、長続きしないと考えています。人を不幸せにしたり、犠牲にしたりするようなことで成り立つ事業はあってはいけないし、長続きするわけもありません。

結局、利益とはお客様のお役に立ち、お客様が幸せになる見返りとして私たちは儲けさせていただいています。その意味で私たちは"儲ける"のではなく、"儲かる"という考えが正しいと思います。まず、基本にはお客様のお役に立つ、という奉仕の精神がなければ事業は存続して繁栄していくことができない、と考えています。

Q. 社長が今、お話頂いた考えで事業活動について取締役の考えはいかがですか。

【亀田取締役】社長が言ったことを、さらに自分なりに噛み砕くと、私たちはお客様にサービスやものを提供することの代わりにお金をもらっているわけです。せっかく仕事をしてお金を頂くのであれば、喜んでもらいたいし、良いサービスや良いものを提供して、「ありがとうございます、助かりました」といってもらいたい。そのような姿勢で仕事をやっていけば、やりがいもあるし、楽しいし、本来、仕事はそうあるべきだと私は思っています。それこそが「事業とは奉仕である」ということではないでしょうか。

Q.働いている社員の方に対しての「思い」についてお聞かせ下さい。

【亀田社長】この会社に入って良かったと思ってくれたら、いいなという思いはあります。厳しいことや大変なこともあるだろうけども、いろいろ含めて合格点がもらえればいいかなと思いますね。一人ひとり会社に対する「思い」は違うとは思いますけれども、そういう中で、自己の実現ができることが必要だと思います。それぞれの個性を正確に理解して、それぞれの能力を伸ばしていけるような会社であればいいなと思っています。

【亀田取締役】基本的には、社員の方に会社をずっと好きでいてほしいと思っています。仕事は大変なことも多く、仕事を好きになれというのは少し難しいのかなとは思います。しかし「仕事は大変だけど、会社が好きだから頑張れる」というような会社であってほしい。そして「この会社が好きだから、自分の子供もこの会社で働かせてみたい」と社員の方がそんな「思い」を感じ、未来に引き継がれていけば素敵だと思いますね。

未来に向けて、これからのビジョン

Q.社長という立場で仕事をしていくうえで、大切なことは何ですか。

【亀田社長】会社を安定して運営していくことです。そのためには、様々なリスクを解消しつつ、先手を打っていくことが大切です。現在、どこに重要な問題があるのか分析し、その問題を迅速に解決すること、一方で将来を見て都度、最適な手を打っていくという、両方が必要です。先のことばかり見ていて足元が不安定になってはなりません。あるいは足元のみに固執し、将来のことを見誤るようでもいけません。この"ミクロとマクロの両視点"をバランスよく活かすことが重要だと思います。

そのための前提には明確なビジョンが無ければなりません。やはり経営者というのは色々なことに対して常に勉強を怠らず、豊富な知識や情報を持って、そこから正しい将来に対する予見性や正しい判断力をもつ必要があります。そして、そこから出てくるビジョンに基づき、中長期をどうしていくか等、社員へ説得できる力、そして社員に希望を持たせる力、これが大事だと思います。

Q. 今見えている課題、そして今後チャレンジすべきことはどのような事でしょうか。

【亀田社長】細かいことはたくさんありますが、ひとつはまず、環境の変化が激しいことですね。企業が継続していくためには常に変化に対応していく、常に変わっていく必要があります。

これに遅れないように対応していくためには、何を残して何を捨てるかという選択が迫られます。良いものは残して、遅れているもの、障害になりそうなものは除外していくという、その判断と実行というのが大切だと思います。

将来の時代の変化というのは、私たちの想像を遥かに上回るものになります。継続して取組むのか、逆に縮小したり撤退した方がいいのかという判断は非常に難しいですが、会社の考えをしっかり持ち、私たちは常に挑戦していきます。

Q. ニッセイエブロの将来を担われる亀田取締役はいかがですか。

【亀田取締役】今社長が言われたことについて私が判断して、これをやりたいって言うのは正直まだ早いかなと思っています。しかし、そのような場面になった時にどのように対応していくのかという判断力を常に準備しておきたいと思っています。

めまぐるしい環境の変化がありますが、当社も臨機応変に考えて、環境の変化に対応していくことが肝要です。その中で私も含め、社員全員がいかに社会変化に敏感になれるかというところが大事になってくるのではないでしょうか。

将来、事業の内容がどうなるかっていうのは、環境や時代の変化の影響もありますので、現時点では実際のところわかりません。今、言えることは、お客様や社員をはじめとするステークホルダーの方がいて会社が成り立つということに関しては変わらないことでしょう。その意味より「つたえる、つながる。」主体である"人"を大事にしていきたいと思っています。私もこの立場になって改めて深く感じています。

ニッセイエブロ株式会社には多くの方々に支えられてきた70年と言う歴史があります。今、あらためて、この原点を大切にし、未来に向けて守り続けていかなくてはならないものだと思っています。

関係者様からの激励

過去6年で約50社のCSR／環境報告書を評価・分析した実績を持つ、
武蔵野大学環境学部 ECO RREPORT WAY 21の学生メンバーに評価頂きました。

評価者 ECO RREPORT WAY 21 プロジェクトメンバー（本冊子企画メンバー以外）

評価基準 **3・2・1の3段階　3−とても十分である　2−十分である　1−十分でない**

実施方法 評価者はグローバルコンパクトの4項目10の原則に沿って冊子の内容を1〜3で評価、合わせてコメントする。

評価方法 上記の評価とコメントを集計し、平均点を評価の欄に表記する。
コメントは「好感を抱く点」と「改善を望む点」の2つに分けて欄に記載する。

武蔵野大学 ECO RREPORT WAY 21のメンバーからの評価

	評価	コメント（好感を抱く点 / 改善を望む点）	本冊子記載ページ
人権	1.6	●社員アンケートの結果等から意識の高さがうかがえ、P9のアンケートの項目11、12が選ばれている点から、人権が守られていると感じた。	8ページ 9ページ
		●人権は他の項目にも通じ大切なものなので、加えて方針等直接的な記載があると尚良い。	
		●もう少し詳しく取組みについて記載があってもよいと感じた。	
労働基準	2.8	●アンケートや写真から職場の様子が伝わる等、ページ数に対して十分な量の記載だと思う。	8ページ 10ページ
		●コミュニケーションカードにより、経営トップとも関われることができているのは好印象。	
		●健康管理等の記載も欲しい。	
		●コミュニケーションカードの使用された例などの記載があると尚良い。	
環境	2.4	●VOICEの中で取組みについて説明しつつ自身の感想が盛り込まれていて、取組み自体の内容と社員の様子がよく伝わる。素晴らしいと思う。	8ページ 11ページ
		●環境に配慮した商品を提供し、広告業ならではの取組みが好印象。	
		●何らかの数値や結果を載せるとより信憑性が増す。	
腐敗防止	2.6	●コンプライアンスについては体制を載せる企業が多い中、社員の感じ方を載せるというのは新鮮であり、良いと思う。	8ページ 9ページ
		●社員自身の認識がわかりやすい。	
		●組織体制図や社外監査の体制、通報制度等の取組みがあれば記載が欲しい。	
まとめ		社員へのアンケート結果が多く、また社員のコメントから社内の様子が読み手によく伝わる。少ないページ数の中で、いかに会社の様子を伝えるかという点では大企業にも負けていないと思う。	

ステークホルダー応援メッセージ

NPO法人
サステイナビリティ創造研究学会
理事長
山田 勝己 氏

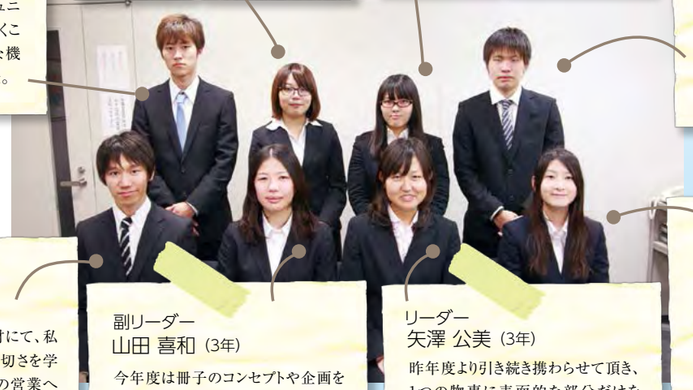
『三方よし』の理念へ発展

近江商人の理念に、『三方よし（売り手よし、買い手よし、世間よし）』があります。
これは、『売り手の都合だけで商いをするのではなく、買い手が心の底から満足し、さらに商いを通じて地域社会の発展や福利の増進に貢献しなければならない。』という考え方です。亀田社長の「事業とは奉仕：お客様の役に立つ、という奉仕の精神がなければ事業は存続して反映していくことができない（12ページ）」は、この理念の『売り手よし、買い手よし』に他ならないのではないでしょうか。また、同社は数年前から武蔵野大学の学生と共に、ECO REPORT WAY21及びCSRレポートを共同編集しています。これは『世間よし』に他なりません。亀田取締役の「“人”を大事にして行きたい（13ページ）」は、父から息子へ繋がるDNAを感じざるを得ません。
労働環境では、「情報共有こそ、働きやすい職場の基本」とし、コミュニケーションの重要性にいち早く気づきSFAを導入され、積極的コミュニケーションを構築されています。また、石川取締役が一貫として大事にしている、「お客様と直接お会いし、コミュニケーションをとること（5ページ）」に繋がっています。
環境への取組みでは、エコ商材について積極的な提案を実践されています。また、CSRの根幹として国連グローバルコンパクトへ加盟し、グローバルコンパクトの広報にも携わっています。
これらの取組みは、創業の精神である「日本復興のために・・・」から、脈々と受け継がれたエブロスピリッツで、創業70周年を目前に『三方よし』の理念に発展しています。

プロフィール
CEAR登録環境主任審査員（B13567）／法政大学大学院環境マネジメント研究科修了（修士：環境マネジメント）／
法政大学環境センターEMS審査員研修講座講師／成蹊大学非常勤講師（科目：環境セミナー）／千代田区 千代田エコシステム（CES）推進協議会 総括監査員
【主な著書】長沢伸也編著、環境マーケティングプロジェクト共著、「 環境ビジネスの挑戦」（環境新聞社）

編集後記

Eblo Report 2013の企画制作に協働頂いた8名の学生（武蔵野大学環境学部環境学科）の皆さんに「編集後記」を書いて頂きました。



武居 浩平（2年）
今回の制作を通して実際の企業の雰囲気を感じることができました。また、自分の未熟さ、社会でのコミュニケーション能力の大切さにも気づくことができました。このような貴重な機会をくださりありがとうございました。

宮本 咲（2年）
CSR報告書を作る、という立場を経験することができたことは、自分の今後の人生においても貴重な財産になると感じました。2年生メンバーが多いことで苦労する点もありましたが、来年度もぜひ参加したいと思います。

須見 春香（2年）
COPでは亀田社長、亀田取締役との対談に大きな刺激を受けました。大学生のうちによく学び、よく経験をするという目標ができました。これからもCOPで学んだことを糧に様々なことを学び、経験していきたいです。

杉田 将人（2年）
学生の身分である私が、企業の方と同じ立場で活動することができた充実した2ヶ月間となりました。力不足を感じながらも、日々成長していく自分を実感できました。この活動で得た知識と経験を今後に役立てたいです。

梶田 一揮（2年）
労働環境を書くための取材にて、私は社内での情報共有の大切さを学びました。自分の営業を次の営業へ活かす、今の営業を次の営業へ活かす。そうして会社が成り立っているのだと改めてわかりました。

副リーダー 山田 喜和（3年）
今年度は冊子のコンセプトや企画を一から考案する作業に取組み、学生である私のアイディアが冊子に反映されたことにやりがいを感じました。またこのような貴重な機会を与えてくださり、感謝申し上げます。

リーダー 矢澤 公美（3年）
昨年度より引き続き携わらせて頂き、1つの物事に表面的な部分だけを見るのではなく深く見て考える大切さを改めて痛感しました。物事を多面的に見て考える大切さを得られたことは私の財産となると確信しております。

岡本 梨沙（2年）
CSR報告書を読むだけではなく、制作することによって、新たに視野が広がりました。また、企業の方と交流することができ、自身の成長につながりました。この貴重な経験をさらに生かせるよう今後も邁進してまいります。

ニッセイエブロ株式会社
事業部 事業推進管理室
伊関 直人

ステークホルダーエンゲージメントの新しいひとつのカタチ

2008年、企業が発行する環境・CSRレポートを学生が独自に作成したリクルート視点の21の指標に基づき評価・分析し、発行企業へ報告・意見交換を行う活動であるECO REPORT WAY　21がスタートして早いもので6年目が経過しました。そして、その進化形プロジェクトとして始まったCOP（Communication on progress/Eblo Report［当社のCSRレポート］）の企画制作も本年で4年目となりました。
これらはコミュニケーションに関わる仕事をしている私たちが、どうエコに配慮し、社会に貢献できるかを追い求める中、本業と統合可能な一つの取組みとしてチャレンジしてきました。まだ、取組みの内容は発展途上です。私たちは将来を担いゆく学生との「CSRレポートの協働編集」が新しいカタチとして、ひとつのステークホルダーエンゲージメントと考えています。
Eblo Reportは当社営業活動のツールとしても活用されており、最近では企業のCSR担当者や教育者、顧客企業様等からもご評価の声を寄せていただくようになりました。
これからも、地道にたゆまず、努力していきたいと考えています。

熱い思いを一緒にカタチに

ニッセイエブロ株式会社
事業部 プリンティングマネジメント部
グラフィックグループ 仁王 達也

このEblo Reportの誌面デザインに携わらせてもらい今回4年目。学生の皆さんの熱い思いを、一緒になって形にしていく作業は、難しいながらもやりがいのある楽しいものでした。うまく形になったかな？今後とも、よりよいものを目指してまいります。ありがとうございました。

ニッセイエブロ株式会社
取締役　総務部長
（グローバル・コンパクト推進委員会）
野沢　功

皆で一緒に成長できる会社へ

今回のCOPのテーマの一つでもある「世代交代」を成功させるためには、次代を担ってくれる「若い活力ある人材」を採用して育てていくことが必要です。当社では、しばらく間が空いていた新卒者の採用を今年から進めておりますが、ニッセイエブロという会社を知るためのツールとして、このCOPが大変役立ったという声を学生から聞いております。それは、このCOPが自分たちと同じ大学生により企画編集され、同じ目線で考えられているからではないでしょうか。
これまで、このプロジェクトに参加した学生の中には、このCOP制作の経験があったので自信をもって社会人としてスタートができたという方がいらっしゃいます。このような新しい社会貢献活動が、一人ひとりの学生にとっては大きなキャリア教育につながったことはすばらしいことだと感じました。
これからもニッセイエブロは、学生や新卒の社員が新しいことにチャレンジできるフィールドを提供して、一緒に成長できる会社でありたいと願います。

会社概要

商　　号	ニッセイエブロ株式会社　[英文表記／NISSEI EBLO INC.]
設　　立	1950 年 2 月（創業／ 1944 年 6 月）
資　本　金	9,000 万円
代　表　者	代表取締役社長　亀田 修平
従 業 員 数	46 名
事 業 内 容	【広報 PR、広告宣伝、販売促進】 総合印刷・企画・編集・デザイン、映像企画制作、 Web 企画制作・システム開発、イベント・展示会等・企画運営、 文書管理・情報管理
事　業　所	本社　〒105-0004　東京都港区新橋 5-20-4 ニッセイエブロビル
主要取引銀行	みずほ銀行　三菱東京 UFJ 銀行

アクセス

JR 山手線、京浜東北線、東海道線、横須賀線
東京メトロ銀座線、都営浅草線、大江戸線
「新橋駅」より徒歩7分

都営三田線
「御成門駅」より徒歩4分

ニッセイエブロ株式会社

Eblo Report 2013 Communication on Progress

～社会的責任活動の報告～

（対象期間：2013年1月～2013年12月）

【連絡先】
グローバル・コンパクト推進委員会
E-mail : gc@eblo.co.jp
Phone : 03-5733-5151　Fax : 03-5733-5161

EMS 578222 / ISO 14001:2004　IS 565077 / ISO 27001:2005　16190122(04)　WE SUPPORT

NPO 法人
カラーユニバーサルデザイン機構
団体賛助会員